



もりおか さとこ
森岡 聡子議員

市民安心のまちづくり 市政運営について

市民が安心して住めるまちづくりを目指され笠岡市が発展していく道筋が見える1年にしたいとの市長の思いについて

議員 障害者差別解消法の取組みについてたずねる。

市長 障害者差別解消地域支援協議会を来年早々開催する予定。

議員 手話言語条例制定に伴う手話の理解、普及施策について

市長 市民へ広めるために来年度は手話劇を予定。保育所、小中学校、さらには市内全域に広げていく。

議員 災害時の避難における聴覚障害者支援マニュアル作成及び心身障害者医療費助成制度について



市長 支援マニュアルは検討していく。医療費助成制度は、他市町村等が精神障害者を対象に含めることについてどのように考えているかを調査して岡山県に要望する。

人生100年時代を 見据えた施策について

議員 高齢化対策の意味だけでなく、長寿化、健康寿命の延伸、少子化、人口減少、社会保障や働き方、教育など社会全体にかかわる見通しが求められている現在、人生100年時代の笠岡市政に対する市長の思いについてたずねる。

市長 病気になったら地域の中で治療を受け、重篤になれば医療機関で治す、そして笠岡に帰ってリハビリを受けるシステムをしつかり作っていく社会を作れば高齢者の方々は、生きがいを持って過ごせると思う。



ふじい よしあき
藤井 義明議員

竹喬美術館 赤字

存続の危機に

議員 竹喬美術館に所蔵されている美術品を多くの市民が鑑賞することに異論はないが、美術品の取扱いが余りにもぞんざいで、多くの問題があり悲しい限りである。

①島しょ部への美術品の持ち出しは現在凍結しているのか。②公民館の展示について、規定・基準・責任の所在等が示されておらず、展示期間を含め書面の取り交わしもない。手続きに問題があると考えるが。③美術品の館外持ち出しに対する損害保険には加入しているのか。④公共施設への展示に不信感を抱き小野家より寄贈いただいた竹喬作品の返却を要求された場合、どのように対処されるのか。

市長 竹喬美術館の入館料収入は、年間310万円強から400万円弱。歳出額は約6,200万円か



竹喬美術館

ら7,200万円。余りに多額の赤字が発生している。市民が絵画に興味を持てば美術館を訪ねることにつながるかと考え、出張展示を計画した。①島しょ部の展示は作業を進めていない。②出張展示の手続きは要領等を庁内で協議し作成していく。③建物総合損害共済の手続きを進める。④小野家には寄贈いただいた竹喬作品ではなく、他の所蔵作品を展示する取組みであることの理解を得て、今後も協力をいただくよう努める。

議員 市長は、美術館の運営が赤字だから巡回展示を行ったのか。

市長 赤字黒字を申し上げてるのではなく、図書館やカブトガニ博物館と比べ入館者が少ないから実施した。